

大学の仲間たち



ツマキチヨウ

学内で見かける白いチョウについて、モンシロチョウとスジグロシロチョウをすでに紹介した。ツマキチヨウは白いチョウの最後の一種である。

名前が「ツマキ」となっているのは、オスの前翅の先端に黄色い紋があるからであり、メスはそこが白い。モンシロチョウよりもやや小型であり、しかも後翅の裏には緑色の唐草模様を呈するが、飛んでいるのを見るかぎり、白いチョウであり、慣れないと他のシロチョウとの区別は困難である。そこで、多くの人は本種が飛んでいても、モンシロチョウと誤っている。大学構内でこのチョウの姿を見かけたことがある人は決して多くないであろう。これは前述の他のシロチョウと紛らわしいことのほかに、このチョウが年に一回早春にしか姿を見せないことに因る。

本学では五月初旬まで観察されている。本種の幼虫はタネツケバナやナズナなどの主に野生アブラナ科植物を食べて育つ。したがって、本学構内でも繁殖しているはずであるが、私はまだ確認していない。

自然環境教育センター 教授

前田喜四雄



奈良教育大学 広報
平成13年4月1日
編集 広報室広報誌専門部会
発行 奈良教育大学
<http://www.nara-edu.ac.jp>